

その他の土石製品製造業における転倒災害の死傷災害発生事例（2017年）

2017年発生月	時間	死傷災害発生事例	年齢	労働者規模
1	10~11	当社工場内において、製品のケトルが吊り下がって移動するレーンがケトルの色ごとに何箇所かある中で、ケトルの中間処理作業をしていた。製品の間隔が空いたため、作業していた隣のレーンの準備をしようと移動する際、たまたま隣から引っ張ってきて使用していたエアホースが床から少し浮いた状態であった事に気付かず、エアホースに足を引っかけて転倒し、床で両膝を強打した。	57~49	30
3	17~18	現場事務所から事務所にタイムカードを押しに向かう際、側溝のグレーチングが100mm~150mm開いている所で左足をとられ転倒した。	60~29	10
6	14~15	台の上に乗し、壁を清掃していた。作業を終え、降りる時に足を滑らせ左足をぶつけた。台の上には、ブルーシートが敷かれていた。	61~9	1
7	14~15	会社で処理した、土を建設残土処理場において摘んだ処理済み土を下している途中、ダンプアップをした時に、右後輪が地面に沈み、そのままバランスを崩し運転席側から横転しその際右肩を打ち関節挫傷した。	45~9	1
7	16~17	工場内にて、原料の砂10~15kgの入ったプラスチック製の箱を作業場から処分場所までの約15mの距離を運ぶ際に床に散乱していた砂で足を滑らせ前のめりに転倒した。起き上がろうとした時に腰から左足にかけて痛みを覚えたが、その後、通常通り勤務を続した。後日、痛みが激しくなり、左坐骨神経痛と診断された。	37~9	1
		社命による応援業務のため、関連会社に行き、作業を開始した。生コン積み込みプラントの下辺りを歩いていたとき、足を滑らせて尻もちをつき、手に持っていたフ		30

7	8~9	ランプ用板（生コンの強度を調べる道具、横60cm、縦60cm、厚さ3.2mm）が、右脇横に当たり負傷した。痛みはあったが休むことなく、市販の薬を服用していたが、一向に痛みが引かず、増々強くなり寝ることも出来なくなったので受診したところ、肋骨骨折と診断され、休業となった。	56	~
7	16~17	事業所加工場にて、次の作業場へ向かって歩いていたところ、微鉄粉が床に飛散している環境で、体の後ろにある右足を前に出そうとして蹴り上げようとしたときに、滑って右足を後方に持っていかれたので、体勢を戻そうとしたが、手よりも先に左膝から落ちて左膝蓋骨を骨折した。	60	1 ~ 9
10	10~11	工場に生コンを引き取りに行き、生コン車洗車中に車止め（高さ20cm）に足を取られて、転がり左足首を骨折。	63	10 ~ 29
11	6~7	骨材のストックヤードから下りた時、そこが凍っていたため、バランスを崩し転倒した。	59	10 ~ 29
11	14~15	工場内で空になったパイプ台車を折りたたんで保管場所に移動させていた際に、パイプ台車が前方に倒れ同時に本人も転倒した。	31	50 ~ 99

出典：[https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen\\_pgm/SHISYO\\_FND.aspx](https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx)(職場のあんぜんサイト)

Return to：[https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206\\_09.html](https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_09.html)